

追悼文 名誉会員 故佐久間貞重博士

日本毒性病理学会名誉会員、大阪府立大学獣医病理学講座元教授の佐久間貞重先生は、持病の喘息の発作により平成 21(2010)年 3 月上旬に緊急入院され、その後、健康状態が悪化し、薬石効無く、3 月 20 日ご逝去されました。享年 75 歳でした。



佐久間先生は、昭和 35(1960)年に東京大学農学部畜産獣医学科をご卒業になり、直ちに田辺製薬株式会社埼玉県戸田研究所(1960~1978年)に入社されたのち、日本アップジョン株式会社高崎総合研究所(1978~1985年)、アップジョンファーマシューティカルズリミテッド高崎総合研究所/筑波総合研究所(1985~1990年)にご勤務されたのち、平成 2(1990)年 9 月に大阪府立大学農学部獣医病理学講座の教授に就任され、平成 11(1999)年 3 月にご退官されています。

昭和 49(1974)年に東京大学から「豚丹毒感染症の実験病理学的研究」の題名で農学博士の学位を取得され、この研究を基盤に、研究面では、製薬企業にご奉職されたこともあり、毒性病理学の確立、薬効薬理学的評価への応用を目指した感染症、薬物誘発そして遺伝性などの種々の疾患モデルの作出とその病理発生に関する研究に精力的に取り組まれ、多くの研究成果を挙げてこられました。加えて先生は、大阪府立大学での大学教育においても深い学識と広い見識を持って学生・院生・研究生に接され、的確な研究のご指導はもとより、人格形成の上でも数多くの助言を与えられ、多くの

有為な人材を社会に送り出されています。

社会的には、製薬企業にご奉職されている間、日本製薬工業協会の安全性委員会/医薬品評価委員会の委員/常任理事会委員/基礎部会分科会長などの責務を担われるなど、製薬企業での安全性研究の創始期から活躍され、その発展に寄与されました。また、毒性病理学の教育・研究を続けてこられたことから、日本毒性病理学会評議員/理事や日本トキシコロジー学会の教育委員会委員/常任審査員を歴任されています。その活動が高く評価され英国の毒科学会会員に推挙され会員となられ国際的にも活躍されていました。さらには、日本獣医学会評議員、日本獣医病理学会理事、日本比較薬理学/毒性学評議員、日本実験動物学会評議員などの要職も努められ、毒性病理学周辺領域の研究においても多大なる貢献をなされています。

昭和 36(1961)年に発生した不幸なサリドマイド禍事件を契機に、製薬企業での医薬品開発における安全性が社会的関心の高まりとなり、特に毒性病理学・実験病理学の必要性・重要性が認識され始めた時期、佐久間先生は若き情熱を、医薬品の安全性評価の要となる病理学の確立に傾注されたとお聞きしています。毒性病理学のパイオニア的な存在と言えます。その経験を踏まえ、大学の獣医学教育における毒性病理学の教育・研究の重要性を、事あるごとに私たちに、そして社会に向けて述べられてきました。そのようなお考えから日本毒性病理学会の創設に積極的に携われてきました。佐久間先生の日本毒性病理学会への「思い」を現す一文が「佐久間貞重先生の退官記念誌」に残されていますので、それを紹介します。

「大阪府立大学在任中、日本毒性病理学会日本獣医病理学会、日本トキシコロジー学会など、所属する学会の仕事あるいは日本毒性病理学会や日本獣医病理学専門家協会が実施する専門家認定にかかわる仕事に携わる多くの機会に恵まれた。これらの行事・仕事を通して、獣医学領域のみならず医学・薬学領域の第一戦で活躍の多くの研究者・科学者に遭遇し得たことも私にとっては望外の喜びであり、また、切磋琢磨の源になった。学会関連行事の中で、何よりも印象に残るものの1つとして、平成 7(1995)年 1 月 26・27 日に本学で開催した第 11 回日本毒性病理学会がある。学会開催日の迫った 9 日前の 1 月 17 日の明け方に発生した阪神・淡路大震災とその惨事である。学会開催の

ため1年余の時間をかけて準備をしてきた主催者として、学会開催を強行すべきかどうか苦慮する連日であった。東海道新幹線の東京～京都間開通のニュースを聞き、学会開催を決断し、学会理事会その他関係者に連絡した次第である。学会参加者の中には被災された人もおられ、その心痛は推し量れるものではないが、私としてもこのような苦渋の選択は二度と経験したくない。関西圏以西の参加者には、大変な浪費と労力をかける結果になったが、学会員の半数以上におよぶ多数の参加者があり、無事学会を終わらせることが出来た。」

その当時、まだまだ発展途上にあつた日本毒性病理学会では若手の研究者が多く、「若手の研究者に研究発表の機会を出来るだけ与えたい」、「毒性病理学を目指す若き研究者を育てたい」。その一心で毒性病理学の将来を見据え、常に考え続けてこられた佐久間先生の「思い」が偲ばれます。私個人としましては、平成4年(1992)年4月から佐久

間先生の下で教育・研究に携わらせていただく機会を得ました。若造であつた私が人生を歩む上で多くのことを学ばせて頂くと同時に、獣医病理学講座の研究環境を整えていただき研究にひたすら邁進することができました。また、先生の飄飄とされた風貌とは裏腹に人を的確に見抜く力(言い換えれば、一人一人の学生・研究者の素性を見極め適性に育てる能力)は優れたものがあり、研究以外の側面として私としては大変勉強になりました(もちろん、その粋には達していませんが・・)。先生の教えと研究・教育に対する真摯な姿勢は、この教室で、そして社会で活躍している卒業生に間違いなく受け継がれています。

最後になりますが、長年にわたる暖かいご指導、そして時には叱咤激励をしていただいた、佐久間貞重先生に感謝するとともに、心から哀悼の意を表します。

(大阪府立大学 獣医病理学教室 山手丈至)